

第 26 回公開セミナー(2023.1.8)抄録 富岡

エビデンス 譲れないものを超えるもの

根分岐部病変へのアプローチ 切除的？保存的？

歯周治療において、根分岐部病変への対応は、臨床家の頭を悩ませ続けている最もチャレンジングな治療である。治療の行方を左右する要素は複雑多岐に渡り、個別のケースに対する処置を、直接的に結びつくエビデンスをもとに単純に決定するのは難しいことも多い。このような場合、周辺のエビデンスから妥当と思える選択をすることになるが、その中でも、何が客観的に示されているかを知っておくことは重要であり、客観的エビデンスから逸脱する選択は推奨されない。

歯周病の観点からは、根分岐部病変は明らかな進行リスクで、分割抜歯などの切除的処置により病変が排除されれば状況は好転する。しかし、日常臨床では、現実的選択として保存的アプローチをとることも行われる。

患者におこなう治療は、客観的エビデンスにもとづいておこなわれるべきであるが、根分岐部病変にかかわるエビデンスと実際の臨床をとおして、リアルなエビデンスの捉え方を提示したい。